

主な問題点（越前市の若者・低投票率）・メモ

✓ なぜ、越前市の若者は投票行動に移さないのか。

○ 投票へ行く気がなくなる。

- ・自分にとって優先度が低く思える。
- ・誰が当選しても同じと思う。一票で社会が変わる気がしない。
- ・無知な自分の一票で社会が変わると怖い（責任を感じる）。
- ・現在と未来のために使うお金のバランスを考えているように思えない（わからない）。
- ・親も無関心である（熱心ではない）。
- ・魅力を感じる大人が少ない（共感できる人・自分たちの代弁者がいない）。

- ・投票よりもやりたいことがある。
- ・政治や選挙よりも考えたいことがある。
- ・自分のことで精一杯である。

○ 考えるのが面倒になってしまう。

- ・政治や選挙というものが難しそうに思える。
→ そのようなイメージがある。実際にもわかりにくい。
- ・政治や選挙というものが身近に感じられない。
- ・とくに困っていない。困らないと思う。

※若者が魅力を感じる大人の特徴（傾向）

- ・活き活きとしており、仕事も日常も楽しんでいる人。
- ・がんばっていることや良いことをしている姿を積極的に発信する人。
→ 応援したくなる。自分もがんばろうと思える。
- ・自分の考えを、忖度することなく言える人。
- ・周りにはたらきかけていく人、周りのために労をとってくれる人。
- ・ユーモアがありおもしろい人。
→ かたい人、固定観念が強い人、高齢者ばかりで交流する人はダメ。
- ・オリジナリティがある人。
- ・影響力や求心力がある人。

○ 夢や目標をもちにくい。

- ・視座が低い。
- ・自分本位の考え方になりがち。

※危機意識

- ・今の若者が高齢者になっても、投票率が上がるとは思えない。

○ 政治や選挙に興味・関心をもったとしても、行動しにくい。

- ・政治や選挙について話せる知人・友人が少ない。ひかれることもある。
- ・誰に投票してよいのかわからない。
→ 若者向けの政策や公約を掲げる候補者がいない。
- ・親が熱心すぎる（特定政党や議員に固定化しすぎている）。

※あまりあてはまらない事項

- ・投票の仕方がわからない。
- ・有権者になって最初の投票に行かなかった場合、その後も行けない。
- ・投票に行くこと自体が面倒である。

主な課題（越前市の若者・低投票率）・メモ

課題1：リアリティの向上（若者に身近に感じてもらえること）

- ・議員や秘書とのコンタクト機会の拡大
- ・インターンシップ機会の提供
- ・議員からの直接的なアプローチの拡大（学校や家庭頼みでは限界あり）
- ・若者議員の割合の拡大
- ・支援者としての高齢者囲いの軽減（若者支援者の拡大）
- ・模擬選挙など体験型機会の拡大（とくに高校生は有効、次に大学生を中心とした若年層）
- ・親に対する政治や選挙への興味・関心の喚起
- ・割引など特典の付与（但し、リスクもともなうため勧められないとの意見あり）

課題2：選挙制度と政策に係る知識について知る機会の拡大（若者に知ってもらえること）

- ・重要性の認識深化。
- ・緊急性の認識深化。
- ・模擬選挙など体験型機会の拡大（とくに高校生は有効、次に大学生を中心とした若年層）

課題3：大人の魅力度向上

- ・自分たち大人が未来を担う若者に影響を及ぼしているということの認識深化。
（まちづくりは人づくりであることの自覚）

その他の課題

- ・映画館期日前投票やネット投票など投票機会の拡充
- ・候補者の主義主張や政策など可視化、明確化
- ・（投票に行くとなった場合は）候補者や政策に係る情報提供の促進

※若者が魅力を感じる大人の特徴（傾向）

- ・生き活きとしており、仕事も日常も楽しんでいる人。
- ・がんばっていることや良いことをしている姿を積極的に発信する人。
→ 応援したくなる。自分もがんばろうと思える。
- ・自分の考えを、忖度することなく言える人。
- ・周りにはたらきかけていく人、周りのために労をとってくれる人。
- ・ユーモアがありおもしろい人。
→ かたい人、固定観念が強い人、高齢者ばかりで交流する人はダメ。
- ・オリジナリティがある人。
- ・影響力や求心力がある人。